

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. C-61

部門名： 3. 地域とともにある学校実践部門	エントリー名： 大高 将紀（青森県板柳町立板柳中学校） 平成30年度教職員等中央研修 第1回次世代リーダー育成研修
活動名： 居場所・絆づくりプラン ～協働の「わ」を広げよう～	
解決すべき課題： 近年、本校では、不登校生徒の増加とその対応が課題の1つとなっている。生徒が実施した学校評価アンケートにおいて、「学校が楽しい」「みんなで何かをするのが楽しい」の項目が低下していることも受け、これらの数値を改善するためには、生徒が学校に居場所を感じる必要があると考えた。また、今回の研修で学習した「同僚性」を教師—教師間のもとより、生徒—生徒、生徒—教師、と広げ、「チーム板中」としての絆づくりに発展させることで、魅力ある学校に近づいていくと考えた。	
目標・方針： 不登校やいじめ等の未然防止の取組みを推進するために、生徒一人一人が存在感を得られる「居場所づくり」と共感的な人間関係を築く「絆づくり」に取り組む。そして、生徒が安心できる学校づくりを推進するために、教員の組織的対応力の向上と指導力の向上を図る。	
活動内容： ※目標・方針に基づいてどのような活動を行ったか、また、複数の活動を展開した場合はその位置づけや関連性を記載してください (1) すべての生徒に対する取組 不登校を未然に防止するために、生徒が学校に行きたいと感じられるような魅力ある学校づくりを進める。 ①すべての生徒が落ち着いて学べる場をつくる(居場所づくり) ・学級の秩序を確立し、いじめや暴力を絶対に許さない雰囲気のある集団を作る。 ・日頃から声がけをし、いつでも教師と相談できる雰囲気を作る。 ②すべての生徒が活躍できる機会をつくる(絆づくり) ・各教科の学習で、信頼感の中で主体的な学びを進める。 ・学校行事等で、協同の活動や体験を通して社会性を身に付ける。 ・日常の当番や係活動などを通して、自己存在感や自己有用感、充実感を感じられるようにする。 (2) 生徒会活動と連動した取組 ①みんなが参加し、みんなの生活を向上させるための生徒会活動 ・全校朝会や生徒総会で4人グループを設定し、全校で1つの課題について話し合い活動を行う。 ・行事の前後に事前集会・事後集会を設定し、身につけたい力や成長できたことなどを話し合い・評価しあう。 ②いいねカードの作成 ・学校の自慢できることや、仲間の良い点などをカードに記入し、中央廊下に掲示する。記入は自由に。 ③ボランティア活動の充実 ・生徒会事務局が先生方にボランティアを依頼する。依頼があった場合は、給食時、全校生徒に放送し、ボランティアを募る。依頼内容は様々（資料の丁合・校庭のごみ拾い・運動部のユニフォームをたたむ）最も多くボランティアに参加した生徒・学級は生徒会事務局で表彰をする。 ・昼休み、生徒のボランティアを募り、ボードゲームで交流できる場や映像を視聴できる場を運営している。 (3) 校内体制の整備について ①教師—教師の連携 ・校務支援システム(schois)の活用：全校生徒の登校状況や連絡事項を閲覧できるようにしている。 ・欠席だけでなく、遅刻、早退、保健室利用、体調不良の訴えなど、気になる生徒に対して、学年主任や管理職と相談して今後の対応について確認している。 ②外部機関との連携	

・スクールカウンセラーとの連携：S Cとの面談を促し、自己開示・自己決定できるよう支援している。
 ・学校に来ることができない生徒には、町の多目的施設内でカウンセリングを実施している。
 ・不登校生徒の様子について、町教委・社会福祉課・保健師・民生委員・S S Wとのケース会議を行い、今後の支援について確認している。
 ・講師を招いて生徒指導研修会(不登校)を実施し、教員の組織的対応力と指導力の向上を図った。

活動の成果： ※課題設定に対して、どんな影響、変化あったか、参加者の声など客観的な情報・データとともに記入して下さい。

- アンケート結果：協力して物事に取り組むことに対する肯定的感情の向上が見られる
「みんなで何かをするのが楽しい」→そう思うと回答した生徒の割合が2・3学年で向上している（資料1）
- ボランティア意識の向上
「ボランティアをするのが楽しい」と進んで活動する生徒が増えた・・・日常生活でも他者を思いやる生徒の増加
- ケース会議の効果：不登校生徒に対し、学校以外の機関（民生委員や保健師など）が自宅に訪問したり、保護者が役場に訪れた際に会話ができるようになった・・・生徒や保護者にとっても居場所が増え、保護者に心の余裕ができたことで、生徒が登校し始めるケースも出てきた。
- 教師間の連携力向上・・・schois を生かし、多学年間でも情報共有が速やかに行えるようになった。

アピールポイント（アイデアや工夫）： ※3～5つ程度、箇条書きしてください

- 「わ」（我）：生徒が「自分事」として捉える活動：各教科での授業での「学び合い活動」を、生徒会活動にも生かすことで話し合うことへの意欲が高まり、「主体的に取り組む生徒」の増加につながっている。
- 「わ」（輪：交流の輪を広げる）：学年を越えた交流の増加（行事の時の合唱交流や縦割り練習等）いいねカードは、西北五地区の生徒会交流会に参加した際、他校の取り組みに感化されたもの
- 「わ」（和）：不登校生徒の教室復帰や、保健室、相談室登校の増加が見られるのは、学校内に親和的な雰囲気生まれ、所属感が高まったことが一因であると考えられる。

資料1 居場所づくり・絆づくりアンケート（板柳中・板柳中学区の4小学校で実施）

項目	全国平均	1 学年（3月は小6時のもの）				2 学年				
		3月	7月	12月	3月	3月	7月	12月	3月	
ア 学校が楽しい	63.8%	37.3%	52.0%	%	%	63.8%	62.4%	48.8%	%	%
イ みんなで何かをするのは楽しい	69.8%	69.8%	63.0%	%	%	69.8%	69.3%	70.5%	%	%
ウ 授業に主体的に取り組んでいる	44.4%	14.7%	17.0%	%	%	44.4%	44.8%	42.8%	%	%
エ 授業がよく分かる	43.4%	30.4%	28.0%	%	%	43.4%	50.5%	33.3%	%	%

3 学年

項目	全国平均	3月	7月	12月	3月
ア 学校が楽しい	63.8%	67.0%	64.1%	%	%
イ みんなで何かをするのは楽しい	69.8%	72.8%	74.8%	%	%
ウ 授業に主体的に取り組んでいる	44.4%	27.2%	27.2%	%	%
エ 授業がよく分かる	43.4%	27.2%	28.2%	%	%

2・3年生は増加し、全国平均を上回っている。
1年生は低下が見られるため、楽しさや自己有用感を実感できる取り組みが求められる。

写真 2・3 全校集会時の話し合いの様子（4人グループ）



資料4 いいねカード

